

◎プロフィール

名前：光成 沙也加 (MITSUNARI Sayaka)
隊次：2021年度4次隊 (2022/4~2024/4)
職種：看護師
派遣国：マダガスカル
任地：アンチラベ (首都から南に車で4時間)



◎女子ラグビー選手に向けた性教育

国際女性デーに合わせて同期隊員の活動地で**女子ラグビー選手に向けて性教育**を実施しました。2日間に分けてU16とU18の選手合計約100名に**自分の体を大切にすること、自分の将来について考えること**を伝えました。

初めは恥ずかしがって発言が少なかった選手たちですが、徐々に質問をしたり反応を返してくれたり、自分事として考えてくれるようになっていたのを感じました。中心となって選手に話をしてくれた保健ボランティア(AC)さんと教育省の看護師さんも生き生きとしてやりがいを感じているようでした。**薬物**についての講義の中で取り入れた**グループワーク**では、各々のグループで時間いっぱいまで話し合い、さまざまな意見が出ました。

中には、将来有望な選手たちが**若年妊娠で選手育成プランが狂う**こともあるそうです。国や周りからの支援・援助がない中で日々ラグビーを中心に生活している女子ラグビー選手たちが、自分の目的を達成するために人生設計ができるようになることを切に願います。



グループワークの様子



たくさんの方が立ち寄ってくれました

◎3日間の布ナプキンの販売

布ナプキンを作製している仕立屋さんと協力してくれているACさんと一緒に、市役所前にスタンドを設置して**布ナプキンの販売**を行いました。今回はイースターの祭典の翌週の出店だったので、余韻もあり通りすがりの人がたくさん立ち寄ってくれました。

仕立屋さんとACさんが布ナプキンの良さを一生懸命説明してくれ、まとめて買ってくれるお客さんもいました。後日、試しに使用してくれたお客さんが追加購入してくれたと仕立屋さんから連絡がありました。**今後も協力して市場で売りたい!**との話が聞け、仕立屋さん和ACさんのモチベーションになってよかったです。私が帰国後も布ナプキンの普及活動を続けてくれると嬉しいです。



使い方説明中

◎新料理本披露会 & 料理講習会実施



調理中の様子

料理分科会と国家栄養局とコラボして作成した新料理本の**レシピ普及と有効活用**を目的に、ACさんに向けて料理講習会を実施しました。今回は“**畑の肉**”と言われる**大豆**を中心とした4種類のメニュー(**豆乳、豆乳シチュー、おから揚げ、大豆と小魚の甘煮炒め**)をチーム毎に作りました。

初めはチーム毎に調理の準備をしていましたが、徐々に2、3チームが合同になって料理をしていて、**チームの垣根を超えて協力し合って完成させる**ところがマダガスカルっぽいなと微笑ましくなりました。レシピ本を見ながら指示を出す人、火加減を見て動き回っている人、黙々と材料を切っている人、使ったお皿の後片付けをする人、それぞれのACさんの特徴が出ていて面白かったです。笑

実食会には保健局の配属長と基礎保健センター(CSB2)の所長とスタッフも来てくれました。4種類のメニューは好評で、後日ACさんが地域の母親や妊婦向けに豆乳シチューの料理デモを実施してくれたと聞き、料理講習会実施の意義があったと実感しました。



実食するCSB2のスタッフ

◎マダガスカルクイズ正解発表！(前号の続き)

～第1問～

ポスターを壁に貼るために糊代わりに使ったあるものとは？！

→ 答え：バナナ

小麦粉に少し水を混ぜて糊状にして貼り付けることもありました！

料理講習会で“バナナ蒸しパン”を作った日は、蒸しパンのカケラで貼り付けていました



～第2問～

市場で売っている、飲み終わったココナッツの殻の使い道は？

→ 答え：床磨き & 床のツヤ出し

掃き掃除の後、床を磨くとワックスをかけたようにピカピカになります！ココナッツオイルのお陰だそうです。

マダガスカル人の生活の知恵ですね！



◎2年間の任期を終えて

任期が終わり日本に帰国して1週間が経過しました。2年間でマダガスカル生活に慣れすぎて、**逆カルチャーショック**で浦島太郎状態の日々です。マダガスカルでの生活はあっという間の日々でしたが、1日1日が新鮮で密度の濃い時間でした。

安定した電気と水が供給されること、洗濯機の便利さ、整備された道路、綺麗な公共トイレ、定刻通りに出発するバスや電車…どれもが当たり前ではないことを日本に帰国して実感しました。街で困った時にはすぐにスマホで検索して自己解決できる手軽さに、少し寂しさも感じます。スマホさえあれば極論、誰にも頼らず1人で生活ができる、他人と関わらずに生きていけるかもしれません。そのような日本の生活の中でも、私が大切にしたいマダガスカル語があります。

“**Valala iray ifanapahana**”—**困難なことがある時は分かち合い、助け合おう**—マダガスカルで学んだ助け合いの精神を、日本でも忘れずに社会に還元していきたいです。今まで拙い文章を読んでくださっていた皆さま、本当にありがとうございました。**Mirary soa (幸運を願っています)!**